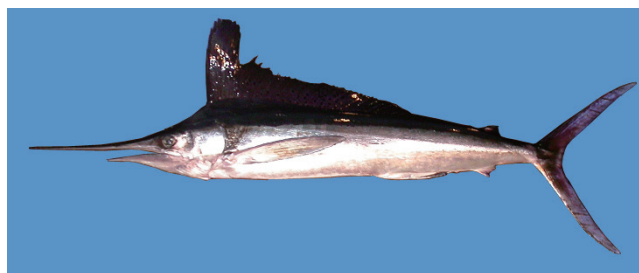


# ニシマカジキ 大西洋

White marlin, *Tetrapturus albidus*



## 漁業の特徴

本種が主対象の漁業は米国、ベネズエラ、バハマ、ブラジル等のスポーツフィッシングとカリブ海諸国やアフリカ西岸諸国の沿岸零細漁業だが、漁獲量の大部分は台湾、日本、ブラジル等のまぐろ類・メカジキが対象のはえ縄で混獲される。また、少量の熱帯域のまき網の漁獲がある。

## 管理・関係機関

大西洋まぐろ類保存国際委員会 (ICCAT)

## 最近一年間の動き

本資源の水準が低位にあることを受けて、生きて漁獲された個体を放流する船が増えている。

## 漁業資源の動向

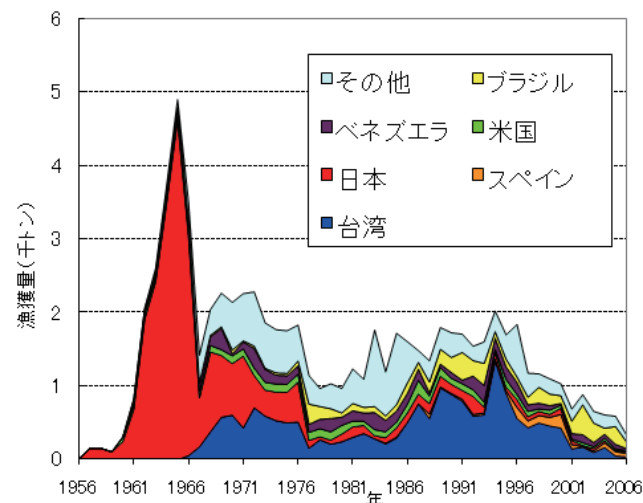
総漁獲量は1960年代中旬に5,000トンに達した後1970年代に2,000トンに急減した。その後も減少し近年は1,000トン以下になっている。従来は遠洋漁業国の漁獲が多かったが、近年はブラジル等沿岸国の漁獲量が増加している。日本の漁獲量は2000年以降減少傾向であり2002年以降50トン未満に落ち込んでいる。

## 生物学的特性

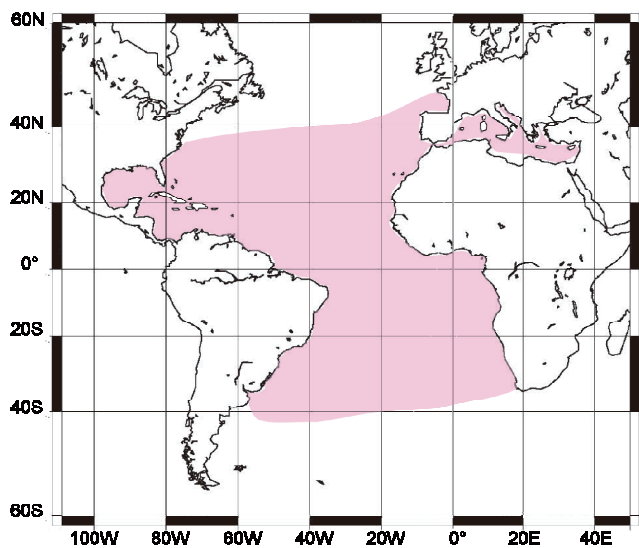
- 寿命：17～18歳
- 成熟開始年齢：調査中
- 産卵期・産卵場：春、熱帯・亜熱帯域
- 索餌期・索餌場：夏、温帯域
- 食性：魚類、いか類
- 捕食者：調査中

## 利用・用途

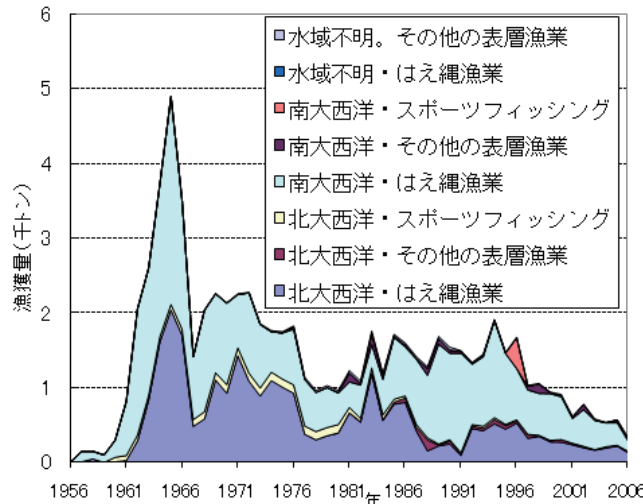
刺身、寿司、切り身（ステーキ）、マリネ



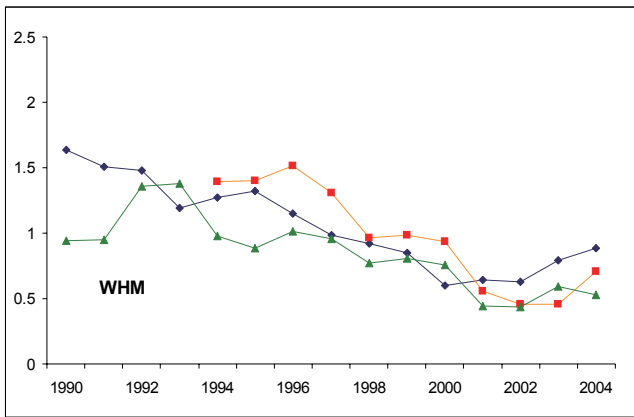
本資源の国別漁獲量（1980～2006年）（データはICCAT 2006b）



ニシマカジキの分布

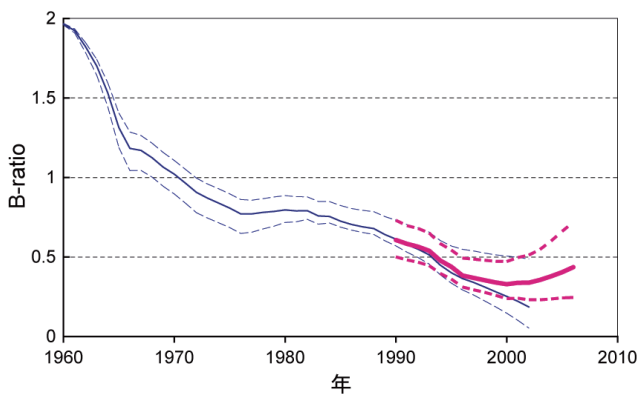


海域別・漁業種類別漁獲量の年推移（1956～2006年）  
（データはICCAT 2006b）



複合資源量指数 (ICCAT 2006a)

3つのラインは、異なる手法によって標準化した結果を示している。



プロダクションモデル解析結果 (ICCAT 2006a、一部改変)

今回の解析でアップデートした部分を赤(太)で、2001年の会合で推定した部分を青(細)で示してある。実線は点推定値、点線は信頼限界を示す。

**資源状態**

2006年、ICCATのSCRS(科学委員会)で加盟国研究者の共同で資源評価を実施した。過去の資源量指数の推定方法に問題が発見されたため、各国から提出された近年の資源量指数と総漁獲量のトレンドの解釈を主とし、その補足として、前回の資源評価で用いた非平衡プロダクションモデル解析を、推定されたパラメータを固定したまま1990年以降のデータを更新して行った。はえ縄漁業の主要4カ国のデータから作成した資源量指数は、1990年以降減少していたが、最近年(2001~2004年)では資源豊度が僅かに増加傾向に転じていた。プロダクションモデル解析では、最近の資源量はMSYを生産するために必要な水準よりもよりもかなり低く、一方、近年の漁獲死亡係数は、MSYを生産するために必要な水準や2002年に予測された水準よりは大きいものの減少傾向にある事が示唆された。しかし現在の規制は導入から4年しかたっておらず、その効果を判定するには、少なくともあと4~5年間のデータが必要と予想される。

**管理方策**

現行の大規模商業漁業を対象とする漁業規制で、本資源はMSYを生産するために必要な水準まで回復する可能性があるが、規制の対象外となっているブラジル、カリブ海諸国の零細漁業による最近の漁獲量の増加は、この規制の効果を相殺する可能性がある。資源の回復をより確かにするためには、現在の規制の徹底と放流魚に関する情報の収集、サークルフックの使用による漁獲個体死亡率の軽減、禁漁期・禁漁区の導入などが考えられる。また、零細漁業による漁獲のコントロールや減少も検討すべきである。

**資源評価まとめ**

- 資源評価はICCATのSCRS(科学委員会)で実施
- ASPICにより資源評価
- 資源は低位で、おそらく微増

**資源管理方策まとめ**

- 資源水準をMSYレベルに回復させる
- 2010年まで、はえ縄・まき網は1996・1999年の漁獲量の多い方の50%以下にする
- 生きて漁獲された個体は全て放流する

**ニシマカジキ(大西洋)の資源の現況(要約表)**

資源水準	低位
資源動向	おそらく若干の増加
世界の漁獲量 (最近5年間)	300~900トン 平均: 600トン
我が国の漁獲量 (最近5年間)	10~30トン 平均: 20トン